

事 務 連 絡

2021.11.05

会 員 各 位

シ ス テ ム W . G .

システムの改訂に関するアンケート結果について

システム改訂W.G.の開催にあたり、先般、会員各位のご意見を電子投票システムにてお伺いしました。

つきましては、戴いたご意見を項目毎に集約し、別添の通り取り纏めましたので、お知らせ致します。

尚、戴いたご意見につきましては、同W.G.の参考資料と致します。

アンケートの取り纏めに際し、提出者の氏名は非公表とし、必要最小限の校正を行っています。

以 上

## 1. システム改革について

### Q 1 今まで以上にシステムの改善や改良を積極的に進める必要があると思いますか？

はい 97票

いいえ 28票

#### 【はいを選択された方のご意見】

- ・システムの改善や改良を積極的に進める事には賛成ですが、当会と開発業者との 契約事項 その後のモニタリングを念頭に当会W.G.と事務局も勉強して、会員の要望、意見を十分検討して、機能の改善や改良を進めて下さい。よろしくお願いします。  
追記：支援情報に、嚮導水先人の当該船舶の評価A.B.Cを記入する欄を設けて下さい。
- ・個人的には現時点で不自由は感じていないが、一定期間ごとにシステムの改善・改良を実施し、会員の利便性を高める事は必要。
- ・現状特に不具合はないが、必要があれば適宜改善すれば良いと思います。
- ・費用対効果を確認しながら、システムの改善や改良を進めると共に事務局の体制も改善や改良を行う必要性があると思料する。
- ・時宜に適した用法に改良すること。
- ・電子海図の改補等のUpdateは現状、保安部から直接に入手するか、海務課作成のCDで行っていますが、これを当会のWEB上で出来ないものでしょうか。
- ・必要性は認めるが、何もかも早急にではなく、優先順位を決めて、良く検討して進めたらいい。
- ・会員と事務所との連絡のデジタル化。
  - 下船時の連絡
  - FAXの完全廃止
  - 専用アプリの開発
  - 電話連絡の最小化
- ・改善改良は必要であるが、積極的というほどでもない。
- ・各当直室から業務書類の経理課あて提出について、8日間の当直期間の中間ぐらいで前半分の関係種類をレターパックで送付しているが必ず土日祝日を挟み送付に遅延が発生する時がある。経理課では現状で特に問題はないでしょうか？バウチャーをその当日のうちに経理課宛にFAX（スキャンニング）

送信したら遅延もなくなりレターパックも不要になる。

- ・文書改訂時に差し替え作業が必要となるが、最近では今まで事務局で用意していたものを電子的に掲載するだけで、水先人各位がそれぞれ印刷して差し替えることがある。この場合作業として反対に個人的負担が増している。こういった場合、文書そのものをＤＢ（データベース）化し、改訂作業は電子的に行い、各自保管している文書ファイルは廃止の方向にしてはどうか。
- ・システムの改善や改良には賛成だが、開発コスト、システムに関わる事務局や会員の人件費も含め、総合的な費用対効果を十分に吟味して進めるべき。
- ・業務の枝葉末梢までシステムに依存するというのではなく、ある程度の根幹部分にとどめ残りの部分は人力対応できるようなシステムが望ましい。  
使い勝手の良いシステムにして下さい。  
Ｑ２Ｑ３について、ペーパーレスは自然な流れですが、相手もあることであり、何がなんでも全てをペーパーレスということには無理はないですか。  
Ｑ４について、個人的には不要、引継書で十分です。また、Ｑ６の全嚮導作業のデータベースを作成するなら、当直室のものは不要です。
- ・現場で業務を行うパイロット、及び事務所でそのアシストを行う事務局双方にメリットのある（例えば、双方の業務効率アップや負担軽減等）システムならば、積極的に進めれば良い。  
ただし、費用対効果がしっかりと見込めるものに限定する事は言うまでもない。
- ・基本はペーパーレス化、他の水先区と異なり、事務所で業務準備することを基本とせず、移動先のホテルで、道端で、できる様なことを考えてほしいです。
- ・ＷＥＢ配車連絡には新神戸到着時間入力欄がありますが、下船時間の入力欄がありません。その為、せっかくＷＥＢ化しているのに下船時間を電話する必要があるのでは下船時間も入力出来る様にしたいかと思います。
- ・利便性や効率性向上のため電子化やシステム化を進めることは必要と考えますが、逆に利用に際して煩雑さが増すこともあるかと思います。一定期間のトライアルを行うこともご検討いただければと考えます。  
ペーパーレスに関して、レスとすべきものかどうか判断に迷うものがあると思いますし、一斉にペーパーレス化されると運用上の問題発生が危惧されます。時間をかけて段階的に行う方が良いかと考えます。
- ・どちらともいえない。  
必要な改善は進める必要があるが、その他は費用対効果を十分に検討する必要がある。

- ・入会后、日は浅いですが、現状のシステムを有益に利用しています。システムが更に便利になるのであれば喜ばしいと考えます。
- ・システムを定期的に見直し、利便性を高めることには賛成です。  
N A I S については、現状でも非常に優れた使い勝手の良いものと思っていますので、海上での使用は電波状態や繋がりにくい海域があるので余り重いシステムにならないようにお願いしたいです。  
また機能や情報検索の追加に関して、あれもこれもと詰め込みすぎるとシステムの負荷が大きくなり作動不良やフリーズが起こる原因、また知りたい情報や機能にたどり着かないといったことになりうるため、本当に必要なものに絞って行って欲しいと思います。
- ・システムに対する投資は今後も継続的に且つ積極的に行っていかなければ、時代に取り残されます。生産効率を上げる為にも、システムの向上は必然。今回のW . G . が、単発で終わるのではなく、継続して行われる事を望みます。
- ・Q 2 Q 3 でペーパーレス化についての質問がありますが、バウチャー、日程表、P I C、C h e c k L i s tなどは、ペーパーレス化を進めるべきだと思います。私の数年前の経験になりますが、オーストラリアのL N G基地においては、バーチャルのペーパーレス化は既に実施済みでした。本船船長は、P I L O T の持参するタブレットに電子的なサインをするだけでした。その電子的な書類を内海事務所、代理店などに送信すれば、効率的かつ、省資源化につながるものと思います。ただし、注意しなければならないのは、バーチャル以外の受信者に理解してほしい重要な情報などを全てペーパーレス化して一斉送信すると、情報の一方通行になりがちですので、このような重要な情報の場合、その情報受信者が、当該発信されたものを理解した旨の、自覚と責任感が出るような返信システムを確立することが必要ではないでしょうか。
- ・水先記録や航路通報、稼働記録など現状において十分な内容及び情報量であると思う。併せて水先人個人の情報（満期日など）については現状維持としこれ以上の開示（表示）はすべきではないと思料します。  
今後は水先人が嚮導船の準備をする上で更なる機能、利便性の向上を図って頂きたい。例えば、  
支援情報に別枠で各人のフリースペースを設け、そこにメモ機能を付けて印刷できるようにする。  
潮流・潮汐表示機能に開始日時だけでなく終了日時を設けそれに見合った時間帯で表示できるようにする。
- ・入会したてであり、現在のところは使用方法に慣れるのが精一杯で改善点等は思いつきませんが改善及び改良は常に行っていく必要があると思います。

- ・システム改善を行う際には担当者(W・G・水先人)を選任し、次回W・G・迄継続して対応すべきと思います。  
システムは開発だけでなく、小さな問題を地道に改善していかなければ、問題の本質が見えなくなり対応が難しくなります。  
アプリが頻繁にアップデートを繰り返すように、システムは作って終わりではなく、育て管理する必要があります。  
管理する体制を組織として確立しなければ、システムは時間と共に風化し、投資は無益となります。
- ・離着岸の安全対策だけをまとめたページを作っていただきたいです。
- ・Q2Q3における関連書類、配布書類のペーパーレス化については、概ね賛成ですが、現状の文書管理システムでは検索機能が不十分で、見たい文書がすぐに見つかりません。  
また企業合併や社名変更によりバース名が変更になる場合など、旧バース名で検索しないと文書が検索できないといった問題もあるので、ペーパーレス化につきましては、管理システムの検索機能が十分に有効で、かつ容易に使用できることを前提に進めていただきたいと思います。
- ・劇的に良くなるのであれば。
- ・システム改革素晴らしいと思います。今回のみの改革ではなく恒久的に行われる事を望みます。
- ・業務にあたる際に支援情報のページから、過去の関連文書及び現在必要な対策等について容易にアクセス若しくは検索できるようになれば、見落とす事が無くなるのではないかと思います。
- ・システム関連については、一昔前にはできなかったことができるようになったりと、日々進化しているので、継続して改良を進めていくべきだと思います。
- ・急ぎではなく、軽い連絡等の電話連絡等は電話ではなく、チャット形式(Skype、Lineなどのチャットアプリの活用)で連絡することが出来れば便利で手早いのではないかと感じました。

#### 【いいえを選択された方のご意見】

- ・システム改訂による合理化効果が曖昧である。ちなみに、私が総務委員をしている時、システム投資によって大型コピー機の削減等により十分な効果が得られるとの説明であった。(さらに、見積書も提示されていなかった)度重なる、総務委員会でシステム投資による具体的合理化効果を追求

したところ、その案件を私の任期が終わるまで引き延ばしとなった。  
投資をするときは、その費用を公開すべきであるし、理事、総務委員は基より一般会員も常に投資効果に関心を持つべきである。

- ・ その時代時代の社会の風潮、価値観はその時は絶対的なものに映るが、決してそうではなかった、あるいは正反対が正しかったという様な、これまでの事例は枚挙にいとまがない。誰しもが過ちを犯すものだということには反論の余地はない。情報共有、情報発信、会員の利便性、持続可能とは、まことに結構なことだが、会員の意見を集約、事務局が改善・改良を着実に進めていくとの説明は、主体の曖昧さと誰のためなのかという疑問と、組織の主体を弱体化させる恐れを感じる。「見ればわかる、見なかったのが落ち度だ」のごとき事態になりかねないし、さらに無機質な変容を遂げる恐れを感じる。  
世相が証明しているように、個別発信の匿名性は水先人会の厳正な経営にはそぐわないと考えている。  
現在の組織の有り様は世代・職歴・思想の混在化が急速に進んでいる。多様性といえばその通りだが、労使関係も無く個人事業主の集まりでは、自由闊達な意見・情報の発信が悪しき平等論に走ったり、收拾がつかない事態に陥りはしないかとの不安がある。  
ヒヤリハットが少なく、自発的報告が極めて少ないことが会員の、あるいは組織のひとつの本性ではないだろうか。  
今一度立ち止まって、将来像を再構築していただきたい。
- ・ 事務処理（水先引受・配乗・請求及び経理）に関しまして費用と効果の対比で、最新システムにアップグレードが必要と考えます。  
ただし、既成会計ソフトを水先業務に改造して、特注システムを避けることによりコストダウンを図る。  
また、複数業者による競争原理を活用して、より使い易いシステムを適正費用で構築する事が肝要と考えます。  
水先業務に関しては、応召制限が複雑化しているためシステムの導入はやむを得ないが、応召の簡素化する事が課題であり、これ以上のシステム改革は必要無いと考えます。  
水先資料の作成については、現状で十分であり、水先計画・PIC作成は水先人の仕事であり、以前に戻す事もないが更なる改善や改良は必要無いと思います。
- ・ 今後の事は、鋭意検討してゆくことは大切であるが、早急にこれを変更しなければならないものはないように感じる。  
改善や改良は、ハードの更新も含め、計画的に進めてゆけば良いのではないのでしょうか！
- ・ やれば限がない。費用対効果を考慮すべし。

- ・ 会員がこのシステムを利用して本来の水先業務をスムーズ・安全に実行すること、それ以外の目的は二次的なものだと思う。  
自分は今現在のシステムで支障を感じていない。スマホやPCと同じで、使って便利な所を使っているだけ。  
事務局の業務軽減が目的だとすれば、そのことによって、水先業務をする会員に余計な手間暇をかけさせないようにしてほしい。
- ・ 現状で満足している。
- ・ システム改善、改良については第一に考えるべきは、使いやすさである。  
当会の会員の年齢層を考えて便利でもいたずらに複雑で会員や手間がかかるようなシステムには反対である。
- ・ 現在までの蓄積データ及び今後の増加分を維持可能な最小限度のコスト圧縮を図るべきです。  
「あれば良い」「出来たら良い」を具現化すれば費用増加避けられないし、会員の利用頻度が増大するとは考えにくい。
- ・ 現状で問題ないとおもいます。
- ・ 水先業務を行う上では現状のシステムで十分。  
システムを障害や不具合に強いものにしていく改善や改良なら賛成だが、むやみに新機能を追加しシステムを肥大化させ、システムの保守運用上のリスクやコストを増加させることには反対。
- ・ 今回のアンケート内容全体について、個人的に感じたことをここに記載します。  
関連書類のペーパーレスは、提出遅れによる業務停滞防止・書類紛失の面に対してかなり有効となると思われるので賛成します。しかしながら、端末の携行及び入力手順把握など、多数決だけではなく会全体の雰囲気や方針を良く考慮して進めていかなければならないと思います。  
操船記録ノートについては、その必要性から検討する必要があると思います。  
一括したシステムにすることは情報入手する際に手間が省けるため良いことだと思いますが、システムの管理及び最新の情報への更新作業が煩雑になり、またシステムダウンの恐れ、ウェブへのアクセス状況を考えた際、大きな不安があります。  
システムの情報量が大きくなるとそれに比例して維持費がかかるため、情報は基本的なものだけで良いのではないかと思います。

Q 2 水先業務の関連書類(例えば、支援情報、日程表、バウチャー)をペーパーレスにする必要があると思いますか？

は い 6 3 票

いいえ 6 4 票

Q 3 一部の配付書類は既にペーパーレスになっていますが、すべての書類をペーパーレスにする必要があると思いますか？

は い 5 0 票

いいえ 7 9 票

Q 4 当直室の操船記録ノート(嚮導実績簿)を廃止して、システムに一覧表を表示する機能を付加することに賛成ですか？

は い 8 4 票

いいえ 3 6 票

Q 5 支援情報を見やすくするためにレイアウトを変更することに賛成ですか？  
(参考事項欄にランダムに記入するのではなく、A I S P L U G 位置&作動状況、主機回転数、Astern of Power 等各項目の記入欄を設ける。)

は い 1 1 3 票

いいえ 1 8 票

Q 6 以下のうち、期待する機能はどれですか？

- ・ 会員入力による支援情報の更新・・・ 3 4 票
- ・ 嚮導データの Excel ファイルへの抽出・・・ 2 1 票
- ・ 会員同士の情報交換アプリ・・・ 8 票
- ・ 利用しやすい文章検索・・・ 3 2 票
- ・ その他(意見)
- ・ 会員入力による支援情報の更新。但し古い DATA や情報は適時事務局で削除すること。
- ・ 携帯、パソコンで情報交換が手軽にできるようになった。  
しかし、コロナ禍のリモートワークで明らかになったように、対面の情報交換の有効性が強く意識され出した。  
この Q 6 の設問にふさわしくないかもしれないが、会員同士の対面での意見交換の場を会員全員が考えて欲しい



- ・LNG船について、Tug Mark及びSunken Bit Arrangementを支援情報に記載してほしい。Tug配置にいつも苦慮しているから。LNG船では、Tug Mark以外の船腹を押させない流れになっているから。
- ・簡素化図り、利用し易い物にして頂きたい。
- ・利用しやすい文書検索。  
例えば海務委員会の議事録、資料等で埋もれている航路、港湾情報、運航関係の文書
- ・Q2 Q3 Q4 Q5は何時、何処で、誰が情報入力し管理するのでしょうか。
- ・同一船舶の嚮導履歴、及び同一航路（出入港含む）の嚮導履歴。（本人のみではなく全会員共通の履歴）
- ・支援情報の更新（最新の情報、データが欲しい）
- ・会員入力による支援情報の更新  
支援情報の更新は会員自身で行うほうが良いのではないか。配乗入力では記入ミス等が見受けられる。
- ・会員入力による支援情報の更新等を実施すれば、乗組員の資質等について主観的意見がそのまま情報として継続される恐れがある。会員入力による更新はあくまで客観的情報のみとする。
- ・会員同士の情報交換アプリまで必要か？個人情報に犯す可能性はないのか？  
従来通りでよい。浪費してまでする必要なし、全く必要としない。
- ・利用しやすい文章検索について、会員の仕事の特性を鑑み、携帯機器により簡単にアクセスできるシステムにしていきたい。
- ・支援情報の即時の訂正を望む。会員によるのは不可。
- ・現在、嚮導船の速力は水先LISTには一概に船舶の載荷状態に関係無く満船の速力を掲載されていますが、支援情報の速力情報が反映されていません。  
また、代理店からの提示された速力も知りたいものです。  
現場では、船長若しくは機関長が交代すると極端に速力が変更される場合があります。船長に確認しても代理店との速力の確認は都度行っていないようです。  
たまに、本船の現状から、これ以上の速力は出せないと拒否される場合があります。

- ・ Q 5 にも関連するが、支援情報の更新については、現行の支援情報をみても、情報の必要性には個人差があり、最新の情報を入力すると過去の情報が一新されるようでは業務上支障を生じるデータもある。一定期間のデータが残るようなシステムの構築は必要。
- ・ 利用しやすい文書検索について、海務委員会等で審議された各港各バースの安全対策や特別な取り決めを確認したい。
- ・ 会員入力による支援情報の更新について、現在は会員が手書きで訂正の上、提出しており、時に事務方の更新文言に齟齬がある。
- ・ 会員入力による支援情報の更新について、水先業務担当者が業務終了後、情報を訂正すれば次の業務担当者は最新情報を見ることができる。  
現状は本部に提出後、担当課員が訂正しているので最新情報が間に合わない。但し、水先業務担当者は訂正日・訂正者名を残しておき、次の訂正者が訂正日・訂正者名を上書きして保存する。本部担当課員の業務削減になる。
- ・ 過去の発刊文書の閲覧、キーワード等による発刊文書検索機能（現状では、文書記号/番号で文書の所在は分かるが、文書内容が閲覧できない。）
- ・ 会員入力による支援情報の更新：要。自由な記入にせず、入力項目と様式は制限する。  
嚮導データの E x c e l ファイルへの抽出：どちらでもよい。  
会員同士の情報交換アプリ：不要。既存のアプリを使用し、新たに開発する必要はない。現状でも S N S を利用して情報交換しているように思います。  
また、業務上、絶対必要な情報は事務所から担当者に伝えた方が確実。  
利用しやすい文章検索：要。現状の検索では、必要な文書にたどり着くまで時間がかかる。また、文書が閲覧できない場合がある。
- ・ 利用しやすい文章検索について、過去の出状全てが容易に検索できるようにする。
- ・ すべて、過去の業務が未来の業務に利用しやすい形にする、もちろん、いつでもどこでも過去の達示文書が検索できる形にし、移動の荷物の軽減をはかり、乗下船の安全に寄与させる。
- ・ 会員入力による支援情報の更新ができれば、次嚮導に即、活用できる。
- ・ 利用しやすい文章検索について、現状の関連文章検索は、最新情報が出ない、内容が更新されているにも関わらず古い情報も検索される、発刊文章が丸ごと出てくるので必要とする項目を探すのに苦労する（議事録など）、等々の問題があると思う。改善を期待する。

- ・ 支援情報の更新については、嚮導した会員がP C上で更新した方がより効率的ではないかと思う。また、過去の同種データが多数記載され、判りにくくなっている場合もあるので、会員が更新入力する場合、必要であれば会員判断でそれらを整理することもできるようにしてはどうでしょうか。
- ・ 嚮導データのE x c e lファイルへの抽出が可能になると様々なデータ整理に活用できて便利だと思う。
- ・ 利用しやすい文章の検索について、現状検索機能が能力低いと考えています。
- ・ 会員自身による支援情報のデータ更新は、出来たほうが省力化と誤入力防止につながるとは思います。同データの管理責任者がいないと必要な情報が勝手に消されたり、古い不必要な情報が延々と無駄に残る気がします。本人による更新が困難な方は、これまで通り暫定的に赤字で修正した紙を提出しても良いのではないかと思います。  
水先人会から出状された情報は大変貴重なデータです。例えば内海だよりに記載された技術関係報告などを、業務を行う前に嚮導船に関係があるかどうか、直ぐに調べられるようにW E B検索システムにおける各出状同様に調べられるようにできませんでしょうか。もし既にできるのであれば、調査不足ですのでお詫び申し上げます。
- ・ 会員入力による支援情報の更新について、別枠に情報として更新されないメモ欄を設け会員が自由に入力し印刷できるようにする。
- ・ 文書検索システムが使いにくいとの意見を聞いたことがあります。第2パスワードを入力することで下記の機能が有効になります。  
岸壁情報表示機能：業務参考資料に記載されている情報を表示。  
関連文書表示機能：業務参考資料に記載されていない情報を表示(事務局、水先人で紐づけ)  
非常に有益な機能です。  
両機能とも表示される主な資料は海務委員会資料(P D F)であり、海務委員会資料は多くの資料が1つのファイルとなっているため、目的の資料を見つけるに課題はあります。  
ただし、P D Fファイルのため、目次ページ(リンク付き)を入れておけば、任意の資料(ページ)へジャンプすることが可能です。  
関連文章機能に関しては掲載情報の基準がなく、時間と共に必要な情報が埋もれてしまうリスクがあります。  
既存システムの問題点と利便性を考慮された上で、文書検索システム導入を検討したほうが良いと思います。
- ・ 会則、施行規則、規程集及び法令集の電子化

- ・文章検索：今現在、文書管理より検索できますが、データが多い為か、検索に時間がかかりTime outと表示され検索できないことがあります。過去の周知文章の有効、無効等も含めて利用しやすくわかりやすくなればと思います。

Q 7 今後、文書管理システムに様々な情報の掲載を検討しています。

以下のうち、必要と思われる情報はどれですか？ご意見に入力してください。

(複数入力可)

- ・現場の航路&港湾情報・・・54票
- ・事故情報・・・43票
- ・ニアミス事例・・・42票
- ・航行業務メモ・・・31票
- ・宿泊施設情報・・・13票
- ・現場の漁船、漁具情報・・・46票
- ・最新の鉄道運行状況・・・18票
- ・港湾等の写真情報・・・22票
- ・入出港操船等の動画情報・・・19票
- ・現場の視程情報・・・17票
- ・各種委員会報告書・・・30票
- ・応招規程・・・37票
- ・内海規程集・・・26票
- ・その他(ご意見)
- ・内海には、諸先輩の努力により十分すぎる情報が蓄積されている、しかし、最新に情報が整理されていない。今までの情報の手当をどうするかを考えて欲しい
- ・事故情報・ニアミス情報及び航行業務メモていどは、文書システムに掲載された方がよいが、現場の漁船・漁具情報は緊急を要し、神出鬼没である為、タブレットでは間に合わず航行中にタブレットを見ることは、かえって危険であると考えられます。  
 その他は、情報は直接にそれぞれ独自に各サイトを活用して収集すべきであると考えます。  
 規定集はペーパーレス化を条件に文書管理システムに入れることも可能と考えます。
- ・錨泊船等の情報
- ・業務に必要な情報は全て掲載出来るようにしていただきたい。また、検索も簡単に出来、常にアップデート状態にしていきたい。

- ・ 現場の航路 & 港湾情報、現場の漁船、漁具情報は有益と思いますが、常にアップデートされたものか、或いはいつに時点のものか確認できるものでなければならない。
- ・ 規定集、業務参考資料（ポケット版含む）等、文書のペーパーレス化及びデジタル化。特に業務参考資料等は常に最新版をネット経由で、参照、ダウンロードできるようにする。業務参考資料の文書での配布の廃止。
- ・ 危険物バースの調査研究報告書等
- ・ 宿泊施設情報や最新の鉄道運用状況は必要ありません。当該管轄のサイトやＨＰを各自で閲覧することが出来る。
- ・ （必要なもの）
  - 現場の航路&港湾情報 各港湾の検索をし易くし、写真情報も含め、業務参考資料に集約するのが良い。
  - 事故情報
  - ニアミス事例
  - 航行業務メモ
  - 港湾等の写真情報
  - 現場の漁船、漁具情報 流し網情報のバージョンアップ？個人的には、ＶＨＦ情報で十分と思います。
  - 各種委員会報告書
  - 応招規程、内海規程集：現状、差し替え作業が無駄である。
- ・ （不要なもの）
  - 宿泊施設情報：ネット情報で十分。
  - 最新の鉄道運行状況：ＪＲ各社の情報で十分。また、関連情報は、配乗課に集まって来るものと推察します。配乗課が該当者に伝えるのが早くて確実。
  - 入出港操船等の動画情報：Ｑ５の各港湾の写真情報で十分。
  - 現場の視程情報：状況に応じた現場対応となります。従来のＶＨＦでの情報交換で十分です。また、入力した時と到着した現場とでは状況が変わっています。それ以外のものは気象庁、保安庁のデータを利用すれば良い。
- ・ 連合会の規定集
- ・ 内海水先人の場合、出入港船の少ないバースでは入会後初めてとなる、或いは前回からかなりの期間が経過しているケースが少なくないと推察します。これらレアなバースについては、現場の航路港湾情報（写真を含む。）や操船動画情報等があれば有効に活用できると思います。

- ・必要と思われる情報

現場の航路、港湾情報・事故情報・ニアミス事例・航行業務メモ・現場の漁船、漁具情報

ただ、「現場の」という意味が「現時点での」という意味だとすると、特に漁船漁具情報は時間による変化が大きいので文書管理システムに掲載するのは難しいと思う。また、最新の鉄道運行状況も同様の理由でシステム掲載にはなじまないと思う。

- ・他のサイトで確認できる情報は、当該リンクへジャンプする機能を貼る合わせだけで十分です。

内海水先人会でなければ入手できない情報に特化すべきです。特に入出港操船等の解説付き動画情報は、他では入手できない情報だと思います。（但し対外厳秘）ベテランの会員様は、莫大な情報をお持ちの事だと思います。このような大変貴重な情報を何らかの手段で、会員皆様と情報共有できれば、当会全体の安全運航につながるものと思います。

- ・ニアミス事例は検索機能を設けて欲しいと思います。

- ・入出港船情報（No Pilot 船含む）各バースの綱取り状況（バースマスターの有無・ラインボートの数等）

- ・稼働記録に会員の業務制限にかかる情報（等級、就業年数、年齢等により制限がある場合のみ）を記載。理由：次業務の予測や2人乗り同乗者の業務制限の把握を容易にするため（現状は新規2，3級、進級1，2級の等級表示のみで全ての業務制限を把握できない）。

- ・規定集などはウェブから最新版が確認できればよいが、刻一刻と変化する漁船情報や鉄道運行情報は載せるべきではない。

- ・バースマスター（トランシーバーの有無）、ラインボート、1stライン等に関する情報

- ・上記の項目でシステム上難しくないのであれば全て掲載希望です。（事務方の負担が増えないことが前提です。（紙ベースのものを再度データとして入力しないといけなくなるのであれば電子データをベースにする等）

- ・綱取りボートの隻数、ラインボートにラインを送れる数（1本ずつ、2本ずつ又は3本）  
タグ基地見取り図  
宿泊施設協定料金  
タクシー協定料金

Q 8 会員全員にタブレットを配布し、情報の共有や発信のため利用することに賛成ですか？

はい 34 票

いいえ 86 票

【はいを選択された方の意見】

- ・ 機器トラブル時の管理はどうか
- ・ タブレットに内海海図の収納  
接岸時の船体の細かい偏移情報等の操船情報の視覚化( サポーターの補助)  
緊急情報の発信・受信
- ・ 配布するタブレットに、市販のパイロット・サポーター・アプリも I n s t a l l して、PC を持ち運ばない方向性なら更に良い。
- ・ 当然です。
- ・ タブレットを配布する場合は、基本的にほぼ全ての事がタブレットで完結出来るようにならないとタブレットが中途半端な存在になり、「何の為のタブレット？」という事にもなりかねませんので、もしタブレットを配布する場合は「完全にタブレットに集約」という強い方向性を持って進めないと失敗する恐れがあるかと思われます。
- ・ Q 9 に該当するかもしれないが、バウチャーを電子化してタブレット上で作成、船長の署名はタッチペンで行い、下船後、データを事務局に送信できるようになれば、バウチャーの早期回収にもつながるのではないのでしょうか。
- ・ 荷物（重量）を増やしたくない気持ちもあり、薄型軽量タブレットの選択肢があれば良いと思います。
- ・ まずは、ミニマムのシステムのプラットフォームを会員全員で揃える事は肝要かと思われる。
- ・ 懸念としてはケーブルなど付帯品も多く、移動時の 7 つ道具が増えカバンの重量・容量が増すこと。  
嚮導船の G P S 操船支援機器として使用できること。またスペックとして相反するが軽量且つ長時間使用可能（バッテリー容量大）なもの。  
配布するタブレットには i S a i l o r（視界不良時に備え内海の標準ルート入力されたもの）及び船舶動静を閲覧できるアプリ  
( M a r i n e T r a f f i c e t c ) を プレインストールしたものが好ましい。  
個人のスマホ携帯と重複する部分・機能が多いと考えるが、機能的に個人スマホを凌駕するものでなければ採用の意味が半減する。

- ・現在、使用中のタブレットでも可能かどうか。
- ・初期設定済ブラウザ(会員用WEB、JCG、気象等)、電子署名機能(バウチャー、PIC等 使用環境について要検討)、PPU(Portable Pilot Unit)を搭載した業務専用タブレットにより、高い利便性とセキュリティを享受できると考えます(電子バウチャーにより請求業務を電子化し事務局業務をスリム化)。  
個人差はあるが携行品として、スマートフォン、業務用タブレット、私用兼B/U P用タブレットの計3台に集約をイメージ。
- ・情報共有には賛成ですが、全員にタブレット配布には反対です。ほぼほぼの会員がスマートフォン又はタブレットを持っているため。  
タブレット端末を持っていない方は、サポーターのパソコンで対応する。又は必要な情報はメールにてもらう等の対応をとる。

【いいえを選択された方の意見】

- ・完璧に情報が外部に漏れなく出来るのか心配です。
- ・レジャーボート用に、非常に便利で安価な航行支援タブレットが市販されていますが、監督官庁より認可された水先人はプロであり、水先人会として、これらを推奨することはできないと考えます。承認されたレーダー・航海計器を活用して、ユーザーに信頼される嚮導をすることが水先人の責務であると考えます。
- ・操船中にタブレットを操作していると注意散漫になる。荷物にもなるし、携帯電話で十分では。
- ・今以上に荷物は増やしたくない。
- ・移動時の手荷物は最小限。
- ・情報共有・発信は、事務局がすべき仕事であって、会員個々人の手間暇を本来の業務以外でこれ以上増やすのはよろしくないと思う。今現在でも第二パスワードだのマイページ暗証番号だのメール設定だの、かなり煩わしく感じている。個々の情報を提供することは結構なことだと思うが、それらを取りまとめて会員全員に発信するのは、今まで通り事務局で行うのが真っ当なことだと思う。少なくとも自分はタブレット配布されても使う気は全く無い。
- ・情報の共有や発信のためのシステム構築は有効であるが、利用端末は必要に応じて各人が準備すればよいのでは。



- ・荷物を増やしたく無い。
- ・情報の共有等は重要であるが、共有のためのツールは各自が準備すべきものであると思料する。
- ・費用対効果を先に検討すべきであり、個人事業であり機器を配付して迄共有・発信する必要ない。アンケート6とダブるのでは？
- ・個人負担で。
- ・情報はあるに越したことはないが、各自、業務前には必要な情報は収集して業務遂行に万全を期すであろうし、また今現在必要な情報は配乗課とも共有している。その情報で十分だと思う。時代の要望によって、好むと好まざるとに関わらず、いずれはタブレットによる情報発信も当たり前になってくると思うが、タブレットの所持が義務化されるとそれに付随する機器の携行も当然増えてくる。
- ・携行物品が増えるので賛成できない。
- ・タブレット配布ということは常に携行することであり、現状では、サポーター、双眼鏡、トランシーバー、ライフジャケット、その他必要書類等で鞆がかなり重く身体に負担がかかっているのです、これ以上は持ちたくない
- ・情報共有、発信利用であれば各自のスマホで対処可能であるし、必要であればスマホのスペックを向上(買い換え)させれば良い。鞆の重量が嵩み、携行しなくなり本質的な利用はしなくなる可能性大です。
- ・サポーター本体、電源、接続ケーブル、スマホ及びその充電器と電子機器はかさ張るし結構重い。神戸、門司で作業するときは良いが、これ以上荷物を増やしたくない。行動中はスマホ本体のみで事足りるようなシステムにしてほしい。乗下船時の安全確保が最優先だと思う。
- ・情報の共有や発信を目的とするのであれば、現状ほとんどの会員が所有するスマートフォンで可能と思われる。スマートフォンを利用しなければならない確固たる理由（内容）が不明。追加の機器を携帯する負担。
- ・タブレットを配布することによって、携帯する荷物が増えるのは反対です。内海水先人は長時間の電車移動や長距離徒歩などで荷物はできるだけ軽い方が良い。スマホのアプリで見れる様にすれば良いのではないのでしょうか。

- ・持ち歩く荷物は必要最小限にし、軽量化を図りたいため、自前のタブレットで十分である。必要な人にだけ配布すればよいと思う。スマホでも見れるし、パイロットサポーターをW E B 接続できるようにしているため必要性を感じない。
- ・反対です。お金がかかって、手もかかるのではないですか？  
移動する際、荷物も多くなります。スマートフォンで利用できるシステムが良い。業務に必要な情報は専用 PC が必要なほど多くないし、秘匿しなければならないような情報はないように思う。  
少なくとも、全員に配布するのは止めて欲しい。希望者だけが、購入して利用すればよい。
- ・タブレット使用のための習熟、携行品増加などを考慮するに配布よりも個人所有のスマホなどで閲覧できるものの方が助かります。
- ・既にタブレットを入手して利用しています。各人の好きなタブレットを各人が購入すれば良いと思慮します。
- ・各自、それぞれ自分に合った、使いやすいもの（タブレット、携帯）をもっていると思うので、それで利用できるシステムを希望します。
- ・タブレット配布には反対（これ以上業務のための移動に持ち物を増やしたくないから、また、能力の高いスマホをそのために既に所持しているから）
- ・タブレットの有効利用、嚮導船への持参は賛成ですが、既に自分でタブレットをお持ちの方もいらっしゃいますし、全員にタブレットを配布するのは不要ではないでしょうか。二つも持ち歩くのは無駄ですし、共有するのはソフトだけで良いと思います。
- ・会員個人でお気に入りのタブレット使用しており、そのタブレットを P P U として使っている者もいると多います。新たなデバイスは不要と考えます。
- ・タブレットは個人購入でアプリダウンロード出来れば良いと思う。
- ・荷物を増やさないでください。
- ・タブレット端末でなければ利用できないシステムであればよいと思いますが、スマートフォンや P C で対応可能であれば不要かと思います。
- ・個人的にタブレットを所有している会員も多く、改めてタブレットを配布する必要性は感じられない。

- ・荷物が増えるので反対。
- ・インターネット上での管理が可能であれば、各自が使用している端末で対応できるシステムを希望します。
- ・みなさんが所持している携帯やパソコン、i p a d 等で対応できるものであれば荷物もこれ以上増えないのでいいかと思います。
- ・タブレットを配布するのではなく、各自の携帯、P C で利用できるものが良いと考えます。

Q 9 コストや技術的な問題の有無を問わず「こんなこといいな、できたらいいな。」と考える機能があれば教えて下さい。

【意見】

- ・内海の事務局員がゼロとなる究極のシステムか、事務局員による会員を手厚くサポートするシステム
- ・コストパフォーマンスが最重要と考えます。
- ・システム改革ではないが、現状戸高製作所のパイロットサポーターを使用している会員が多いものと思われますが、サポーター対応P Cをタブレットタイプで使えるように出来ないか？
- ・我々が入会した時は先輩会員から色々（技術の伝承も含め）教えてもらっていたが、現在では、出身会社も年齢も様々で、また、現状のコロナ禍で会員同士のコミュニケーションも少なくなり、十分な技術の伝承が行われていないのではないかと感じています。蓄積された内海の技術の伝承を後進に伝えていくためにも資料を纏め、後進の育成を含めた全体的なレベルアップをしていかななくてはならないのではないかと考えていますので、是非資料の纏めを作成していただきたい。
- ・着岸操船時の船体偏移情報の視覚化、特に、将来の偏移情報の予報の視覚化
- ・情報入力等で事務局スタッフ及び会員の新たな負担とならぬよう、簡単明解なシステム構築を目指してください。
- ・業務専用アプリの開発。

- ・現在電話連絡している「上陸時刻」の連絡をシステム内で入力出来るようにし、会員・配乗課員の電話連絡の手間を減らすと共に、業順・離順の開始時刻を明確化する。
- ・お金をかければ、何でもできます。業務用ツールとしては、コンパクトな使い勝手の良いものを望みます。「あったら便利」なのかもしれませんが、「なくて済むもの」は、なくても良い。できるだけ余分なものはなくし、ベーシックのしっかりしたシンプルなものが良い。
- ・紙は重たいし、かさむし、整理にたいへん、バウチャーから何でも、ファイルで、電子サイン、言わんや、文書は全て電子ファイル、海図から何から、紙を持って、瀬戸内海をウロウロ業務しない様にしたい。
- ・ソフトバンクの契約の際にはタブレットに署名して契約が成立します。同じように会で入力したバーチャーがタブレットに表示されて、船長にそのタブレットの署名欄に署名を貰うという方法。ANA ではタブレットが支給されて、仕事のマニュアルや会社への各種申請や会社との連絡、仕事に必要な情報等はほぼ全てそのタブレットでやり取り出来て、仕事上で必要な事項はほぼ全てタブレットで完結するようです。同じようにタブレット端末だけでほぼ全ての事が出来るようになると非常に効率的かと思われます。
- ・自船の嚮導海域内に於ける他内海水先人乗船船舶の遭遇予定時刻、海域一覧。
- ・特にありません（思いつきません）。Q 6 Q 7 にあるような機能や検索で十分と思います。
- ・「日程表」について、手書きではなく、システム入力式になったら便利と思います  
P I C の自動作成時に支援情報のタグボート名がリンクし、タグ配置を自由に選択出来、さらにタグ船名が英語表記になれば便利と思います。
- ・配乗船と直接関連する、航路や港の情報、指針、事故情報などが、略図からリンクされるシステム。  
また、事故トラブル処理ガイドライン、各種通報ガイドライン、電子ログ。
- ・特殊な船型・操船の困難なターミナル、過去に事故が起こった状況等に限定し、シミュレーター訓練の機能を、自宅環境で簡易的にできる機能があれば、より安全運航、効率的なオペレーションに繋がると思います。既に似たようなソフトがあれば、それを会員に紹介、提供するだけでも結構です。

- ・神戸本部にA I S機能等による内海嚮導船の一括監視装置（イメージとして Marine Traffic）を設け、その情報を会員がスマホ（タブレット）でリアルタイムに閲覧できるシステムの構築。
- ・パイロット乗船中の船舶の検索及び位置表示が容易にできる（サポーター）
- ・P P Uに表示する他船の表示を、水先人乗船の船のみ色を変えて表示する。
- ・質問文章が小馬鹿にされているようで、大変不愉快です。まともな会社でないことは重々承知しておりますが、いい加減にしてほしい。
- ・電話連絡の削減（ 期限を設定し、確認が取れなければ電話連絡）  
 配乗確定及び確認：メール a n d / o r 通知確認機能（会員 WEB、双方向）  
 航路通報等調整やホテル/タクシー予約等必要であれば電話連絡  
 出発確認：メール a n d / o r 通期確認機能（会員 W E B、双方向）  
 上陸時刻：会員用 W E B で入力（配車システム連動）  
 日程表作成の自動化：電子バウチャーから情報を引用、自動作成し、会員が確認修正（会員用 W E B ?）
- ・支援情報は、嚮導船舶に関する情報が記載されていますが、岸壁に関する情報（係船策の本数、ライン取り要領、バースマスターの有無、ラインボート有無、離着棧中止基準、潮流制限、その他特記事項など）については、会員個人個人が独自に入手し、必要な情報をメモしたり、また一部の会員同士でそれらの情報を共有し、日々の業務に備えているのが現状です。  
 一個人で、内海水先区全バースの細かな情報を収集するのは、不可能に近く年数も掛かります。  
 岸壁の細かな情報に関しても支援情報同様に全会員で共有できれば、航行の一助になるのではと考えます。
- ・決定前の翌日予定は頻繁に W E B で確認しているので閲覧済みボタンでも付けてもらえれば、電話連絡は不要です。
- ・日程表はペーパーレスでも特段問題ないと思います。
- ・コスト大ではありますが、ウェブのアプリ化。機能としては、決定後の変更等はスマートフォンのプッシュ通知にてアイコンで通知する。  
 距離表や操船図などを仕事に必要なものをすぐに見れるようにする。  
 P I C や必要書類はタブレットやスマートフォンを作成しやすくする。

- ・現在、支援情報の潮流潮汐を P D F 出力すると潮流、潮汐の数値が次のページに飛んで印刷されるので改善して欲しい。  
P I C 作成時に「タグ名記載、有無」ボタンのような物を作ってタグ名と出力が自動的に入るようになったらいい。P I C の潮汐潮流に H W , L W の記載があったらいい。P I C のサインする場所に名前が自動的に入ったらいい。
- ・マリントラフィックやシップファインダーなどを利用して、パイロット乗船中の船の動きを把握できる機能があれば参考になります。  
業務する船の過去の履歴を検索できると参考になります。  
例：船名をクリックすると、過去 2 ～ 3 年分の航行履歴の一覧が見れる(業務にあたるバースや航路がその船にとって初めてなのか、何回も入港・航行していて慣れているのかなどの参考として)。
- ・現在の水先記録では、日付指定による 2 ～ 3 日分の港ごとの船舶動静を調べる事は出来るが、更に船名やバース名でも検索できると自分が嚮導する船がどのくらいの頻度でどの海域を航行しているのかなどを把握出来て便利だと思います。また、自分が嚮導する船が航路や出入港で行き会う可能性のある船舶が強調表示される機能などもあれば、見落としや狭水道での輻輳などが減ると思います。
- ・現在の支援情報では日付を指定して過去の記録を見るようになっていますが、船名検索の機能をつけて過去の内海での航海実績等が一覧で確認できるようになったら便利だなと思います。  
例えばですが、船名検索機能で Q 6 での嚮導データの E x c e l ファイルの抽出に付随して過去の嚮導日時、航行範囲等が一覧で閲覧できるようにする。そしてその E x c e l での日時にリンク機能をつけて該当日時の支援情報にアクセスすることができれば当日の潮流情報なども確認できるので、参考事項に記入して下さった情報がより活きると思います。
- ・配乗からの確認電話の削減。時間帯を設定し支援情報から「確認しました」ボタンでお知らせするなど。  
佐賀関寮及び各事務所に P P U を設置し、若しくはインターネット上で各会員の航路、航跡、漁具、避険線などの情報データを共有できるようにする。
- ・水先人が乗船している船舶の現在位置、乗船水先人名を表示できるアプリ。
- ・P I C の航行経路図がもう少し見やすくなれば C a p t . に説明しやすい。
- ・支援情報から操要領図にリンクすればありがたいです。

Q10 他水先区のシステムについてご存じの方にお伺いします。

当会のシステムに比べて他水先区が優れている機能として、どのようなものがありますか？

【意見】

- ・ 他水先区の情報なし。
- ・ 他の水先区は分からないし興味もない。
- ・ 境港水先区では、水先業務終了後、バーチャーを作成したら直ぐに代理店あてにFAXで送信している。(内海に比べ、船の隻数は少なく、バウチャー記載事項も複雑でなく間違ってもない。内海経理課では受信後、記載ミスがないか一度チェックの必要はある)
- ・ 大阪湾では決定の船の情報がメールで送信されて来て、その内容を確認して空メールを送信すると了解した事になるそうです。そのようなシステムになると効率的かと思われます。
- ・ 他の水先区のシステムは知らないので、特に意見はありません。
- ・ 他水先区システムについては不明です。
- ・ 東洋信号所のAISデータ(航跡図)を誰でも抽出閲覧可能。初めて行く岸壁などで、過去の先輩の航跡を確認できる。
- ・ 現在利用しているシステムでは基本的に必要な情報が記載されているため、個人的には現在のシステム情報で十分である。そのほか必要な情報は利用できるウェブにて、必要に応じて各自確認する方がいいと思います。

以 上